



開成町を世界に発信

株式会社オリエンタルコンサルタンツ代表取締役社長
野崎 秀則

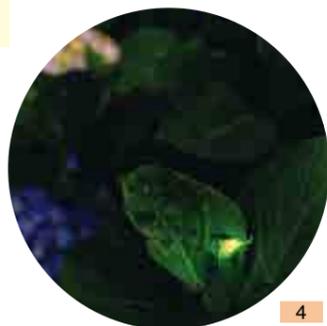
のざき ひでのり
野崎 秀則(61歳)
昭和57年 株式会社オリエンタルコンサルタンツ入社。
東京事業本部環境文化部景観デザイン室長などを歴任
平成17年 株式会社オリエンタルコンサルタンツ取締役執行役員関西支社長就任
平成21年 現職

野崎 地域の特性を生かして、地域経済に活力を与えるためにも訪問者が増える工夫が必要です。
一つは、地域における連携の強化で、中でも「民間企業間の連携」の推進です。既に瀬戸酒造店では、富士ファイル株式会社や小田急電鉄株式会社などの企業と連携し、新酒の醸造やメニュー開発、見学ツアー開催などに取り組んでいます。今後も連携をさらに進め、新たな価値を生み出し、地域活性化に貢献したいと考えています。
もう一つは、「水と花とホテルの町、開成」をテーマに地域ブランドづくりを検討していきます。開成町の魅力は、美しい田園風景に加え、地下水や

張り巡らされた水路、あじさいなどの花、そしてホテル。これら結び付け、通年で楽しめる散策・サイクリングルートを開発し、情報を発信することで、これらの魅力を住む人、訪れる人、働く人に知っていただき、地域ブランドの強化に繋がりたいと考えています。
府川 今後も町の魅力を積極的に発信し、町内外に伝えていきたいと思っています。民間ならではの自由な発想に期待しています。
野崎 これからも微力ではありますが、開成町のブランドにさらなる磨きをかけ、発信し、地域活性化に貢献したいと考えていますので、よろしくお願ひします。

用語

※2インバウンド：外国の方が日本を訪れる旅行のこと。
※3農泊推進事業：「農泊」は、農業等の地域資源を活用した観光の総称。地域農業の高付加価値化をめざし、瀬戸酒造店を中心とした協議会が活動を始めている。



4



3

府川 転入された方々には、町内にホテルが生息していることを知らない方も多いと思います。町の貴重な資源であるホテルを保護し、自然の豊かさの象徴として、町の魅力に繋がれたいと思います。
野崎 3つ目の施策は、瀬戸屋敷と瀬戸酒造店を核にした「インバウンド（※2）観光」の推進です。弊社は開成町における民間事業として、瀬戸酒造店を運営しています。
府川 一昨年、38年ぶりに自家醸造が再開されました。一年目からイギリスやフランスの日本酒コンクールで次々と賞を獲得されました。おめでとうございます。町内産の米や水が使われることで、世界に向けて開成町のPRが出来る、大変嬉しく思います。
野崎 お陰様で受賞を契機にフランスやイタリアへの輸出が始まりました。先日もノルウェーから40名の方が瀬戸酒造店を見学され、瀬戸屋敷でくつろいでいかれたと聞いています。
府川 外国の方が団体で来町されることは減多にありません。

るので、大変驚いています。北部地域の魅力が世界にも認められているのですね。
野崎 今後、町とのタイアップにより「農泊推進事業（※3）」を進めていきます。海外のお客様をターゲットにして、満足度の高いサービスを提供できると思います。目標は、開成町ブランドを海外に届け、インバウンド観光が推進され、「世界の開成町」を発信することです。
府川 「世界の開成町」ですか。素晴らしいですね。農泊推進事業は、地域経済の活性化にも直結する取り組みでもあります。非常に魅力を感じていて、ワクワクしています。
未来に向けたまちづくり
府川 将来に向け、開成町で育った子どもたちが大人になっても住み続けたいと思えるまちづくりを進める必要があります。それには、地域経済の循環によって、効果を生み出す仕組みづくり

が重要だと思います。
北部地域活性化に関わる中で、野崎社長が考える開成町の未来に向けたまちづくりに必要と思われるポイントをお聞かせください。
野崎 まず大切なのは、地域の特性を生かし、住む人・働く人・訪れる人にとって、魅力ある地域にすることだと思います。大人が魅力を感じるだけではなく、子どもたちが大人になっても地域に愛着を持ち続けられること。地域で働く人たちが豊かさを感じられること。そして、訪れる人が地域に魅力を感じること。この三者が魅力を感じられる地域になるための支援ができればと考えています。
府川 開成町の特性は、住んでいる人が元気であるとともに、外からの人も受け入れて、一緒に元気に活動していることだと思います。

子どもが住み続けたいと思えるまちに

開成町長 府川 裕一



③イギリスやフランスで受賞した瀬戸酒造店の日本酒。
④開成町を飛び交うホテル。